

# 風土記の丘の花だより<sup>322</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2026年5月23日)

テレビでは、各地で猛暑だの酷暑だのと報道されています。まだ5月ですよ。どうなっているのでしょうか。そしてこれからどうなっていくのでしょうか。先が思いやられます。嘆いてばかりいないで、涼しげな花を見ていきましょう。



道ばたに真っ黄色な花が咲いています。ずっと前から咲いているので、すでに実ができている株もあります。この可愛い花はミヤコグサ、マメ科の雑草です。別名を「ひよこぐさ」というそうです。たしかに、丸くて、黄色くて、小さくてまさにひよこですね。実ができていると書きましたが、マメ科なので豆のさやができます。2本のさやが、カタカナのハの字型に付きます。黒く熟すと、よく晴れて乾燥した日にパチンと弾けて中の豆を飛ばします。



ドクダミの白い花が咲いています。悪臭がある上、すごい勢いで生え広がるので嫌われがちですが、花はとても可愛いです。昔からは民間薬として重宝されてきましたが、いい薬がたくさんできた現在では、そんな使われ方も段々減ってきたことでしょう。私が生まれ育った地域では「じゅうやく・十薬」と呼ばれ、十種類の傷病に効くと言われていました。最近、庭に蔓延したドクダミを根絶するには、抜くよりハサミで切る方がいいとSNS等で話題になっています。私も試しています。果たして、効果やいかに。



真夏のような青空を背にセンダンの花がきれいに咲いています。毎年この花が咲くと「また今年も暑い夏が来るなあ」と思うのですが、今年はすでに夏の暑さになってしまっています。昔の名前は「あふち」読み方は「oochi」です。南方熊楠が臨終の床で「天井にあふちの花が咲いている」とつぶやいたという話は有名ですね。また、「妹(いも)が見し あふちの花は散りぬべし 吾が泣く涙 いまだひなくに」という山上憶良の歌が万葉集に残されています。



梅林を過ぎてしばらく歩くと、右側(谷側)に何やらたくさん細長いものがぶら下がっている大きな木が何本かあります。これはシナサワグルミです。ぶら下がっているのは花(または実)です。花といっても一つの花ではなく、たくさん花が集まった「花序・かじょ」というものです。クルミの仲間ですが、私たちがイメージするクルミとは違って、あんな大きなおいしい実はできません。明治の初め頃、中国から渡来したと言われていています。風が吹いた後、落ちていることがあるので観察しやすいですよ。 松下